

新しいサイクルラック

A new bicycle rack

学生指名 久保田悠楽

指導教員 比留間 真

サレジオ工業高等専門学校デザイン学科空間・工業意匠研究室

キーワード：東京オリンピック, サイクルラック, 自転車愛好者, 地域活性化

1. 研究目的

来る2020年、東京オリンピックが開催される。この東京オリンピックの一競技であるサイクルロードレースでは武蔵野公園から富士スピードウェイまでをつなぐ一般道がコースとなる。(図1)

このコースには我がサレジオ高専からもほど近い「道志みち」と呼ばれる峠道が含まれる。平時でも多くの自転車愛好者でにぎわうこの峠道だがオリンピックのロードレースのコースとなることで自転車愛好者が増加するのはないかと推察し、彼らにとってより過ごしやすい環境の提案ができれば地域活性化にも貢献できるのではないかと考えた。



図1：ロードレースのコース

2調査分析

自転車愛好者の増加による経済効果や地域活性化の成功例はいくつかある。その一部を以下に記す。

2-1サイクリングロードしまなみ海道の成功例

広島県の尾道から愛媛県の今治まで、8つの島々を9本の橋でつないだ「瀬戸内しまなみ海道」（以降「しまなみ海道」）は、国立公園でもある瀬戸内海の自転車で魅力が味わえることから「サイクリストの聖地」として、日本国内外から多くの人を訪れており、日本国内で最も成功したサイクリングロードになっている。瀬戸内しまなみ海道の自転車無料化

に加え、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）などでの認知度向上により、国内外問わず、サイクリストが増加している。

2-2.JR東日本「BBBase」の成功例

現在、自転車を鉄道車両に積み込み、目的地もしくはその周辺で自転車を下ろし、サイクリングを楽しむ自転車愛好者が増加している。この行為は輪行と呼ばれ、通常は既定の袋に分解した状態で電車に載せることが鉄道会社が定めた規定により義務付けられている。(東日本旅客第二編旅客営業規則第10章手回り品308条2項1節より)しかし、2018年1月よりJR東日本千葉支社が運行を開始した房総半島観光用列車BosoBicycleBase(以下、BBBaseと表記)は事前に予約すればJR両国駅から自転車を分解せずに車内の専用ラックに積み込み、千葉県内の駅で自転車を下ろし、復路のBBBaseが到着するまで房総半島内での観光ができるというもので、開業以来自転車愛好者の注目を集めている。

3. 提案物の検討

ここで述べている自転車愛好者とは趣味としてロードバイクやマウンテンバイクといったスポーツサイクルを趣味で扱う層である。

彼らが使用するスポーツサイクルと称される自転車は、軽量化や空気抵抗の削減のために自転車本体を自立させるためのスタンドが取り付けられていないことがほとんどである。そのため、自転車本体を自立させるためにはサイクルラックと呼ばれる据え置き型のスタンドが必要となる。自転車愛好者を集めたい商業施設などではこのサイクルラックを設置していることが多い。しかし、現状のサイクルラックはサドル部分を簡単にひっかけるだけで簡単に用いることができる反面、風による落下やかけてたる他の自転車に接触する。

そこで既存のサイクルラックが抱えるこれらの問題を解決することができればその地を訪れる自転車愛好者の増加が見込めるのではないかと考察し、新たな様式のサイクルラックを提案することとした。

3-1アンケート調査

SNS上にて自転車愛好者15名に対しアンケート

